

●そして前庭の先端（入隅空間）には枝垂れ桜を計画した。

この枝垂れ桜は、住む人が毎日通るコリドーを見守る位置にあり、私の心の中では同潤会江戸川アパートメントの記念樹的存在にしたかった。

たまさか、私の親友が、桜守・佐野藤右衛門 16 代目のご長男と大学時代の親友であった。京都円山公園にある祇園枝垂れ桜は、15 代目佐野藤右衛門が命がけで守り育てた桜として美しく雄大な姿を今日も保っている。

そしてご長男を通じて、同潤会江戸川アパートメント建替え計画の前庭に、記念樹的な樹木として是非祇園枝垂れ桜を、住む人を毎日見守る位置に置きたい旨を話して頂いた。16 代目佐野藤右衛門からの回答は、「同潤会江戸川アパートメントの建替えにお役に立てるのなら分けましょう。しかし販売の宣伝目的には使わないことが条件です。」

私はこの回答を頂き、当時旭化成の部長に、前庭に京都の祇園枝垂れ桜を置きたい旨、費用は 100 万円くらいで・・・と話をした。部長からは「祇園枝垂れ桜、良いじゃないですか。」との即答を得る事が出来た。

早々、京都佐野家の庭園に行き、桜の選定を行った。佐野家の庭園は 200 種類以上の桜が育てられており、観光バスがくる程、桜の名庭園として親しまれている。その中の一本を選定するのに一日かけて悩み抜いて選んだのが、現在コリドーから見える「祇園枝垂れ桜」である。桜の木は人と同じくすべて顔・姿が異なる事を改めて認識した。

この枝垂れ桜は、実生（シヨウ）から佐野家の人達により手塩にかけて育てられた桜である。この枝垂れ桜が江戸川アパートメントの人達を見守り、喜びを与え、そして、人々の原風景となってもらえれば、桜守・佐野藤右衛門氏にも喜んで頂けるのではないかと考えている。



コリドーから望む祇園枝垂れ桜（竣工 2005 年当時）

以上